

\* \* \* \*

西田 (1952) の分類による *Botrychium* ヒメハナワラビ属, あるいは Clausen (1938) の *Eubotrychium* 亜属に属する 6 種の胞子の形態を光学顕微鏡と走査型電子顕微鏡で観察した。Clausen は同亜属を Sect. *Lunariae* のヒメハナワラビ節と Sect. *Lanceolatae* ミヤマハナワラビ節の二つに分け, 前者に 5 種後者に 1 種を配したが, 今回筆者は前者の Sect. *Lunariae* の中に二つのグループを認めた。その根拠は *B. simplex* の胞子が他のものに比べ大きさや彫紋が明らかに異なるためである。一方後者の Sect. *Lanceolatae* は胞子形態学上からは, 特有の彫紋を有し Sect. *Lunariae* との区別は比較的容易である。したがって西田の *Botrychium* は胞子の形態学からは三つのグループに分けるのが妥当と考える。しかし個々の種の区別は容易ではない。また今回は日本と外国産の同じ種の胞子の形態学的比較を行なった。その結果の一つとして, ハケ岳で採集されたコケハナワラビ (西田) は *B. simplex* var. *tenebrosus* ではなく, *B. lunaria* var. *lunaria* ヒメハナワラビの矮小形であることがわかった。

□ J. S. Womersley: *Handbooks of the Flora of Papua New Guinea* vol. 1. pp. 278. ff. 115. 1978. Melbourne Univ. Press. 8,840円。パプア・ニューギニアのフロアの第一巻である。この地方は世界有数の種類の豊富なところとされながら, 報告は出てもまとまったフロアとしてはなかっただけに今後が期待される。今まで 3 ケ国に領有され, それに引きつづいての委任統治, 独立と歴史を短時日で経て来ただけに, その呼び名までまことに分かりにくかった。それを一応政治から脱脚して, Western New Guinea (6 地方), North Eastern New Guinea (6 地方), Papua (7 地方), Bismarck Archipelago (3 地方), Solomon Islands (8 地方) とに大別し, これを一括して Papuasias と呼ぶことを主張している。

はじめにフロアを low land, montane, subalpine とに分け, 前者を海岸, 湿地, 低地雨林, 常緑林, サバナ, 低木林及び草地に, 中者を 1000~3800 m とし, イネ科の湿地と山岳降雨林を上中下に, それ以上の亜高山帯とにわけて述べている。4200 m ほどの高山ではキンポウゲ, リンドウ, イヌノヒゲ, キジムシロ, ソモソモの類と, 大部分が日本とひどく似ているのが面白い。この意味ではアジア的でさえある。その次に 11 科だけ各科毎に科の記載, 検索表, 各属と種をあげ, 適当に図を加えて論じてある。ヒユ科, タデ科は別としてほとんどが標本から描かれた図で, 記述もそれに準ずるだろうから, 同定は大変であろう。Terminalia 各種の果実はじつに多型であるのに驚く。Datisceae の 2 属 2 種も興味がある。全部でパプアシアには 209 科あるというから, まだその 5 % で, それも少数種の科だから, 今後の発展を期待したい。(前川文夫)